

CONTENTS

新年のご挨拶	「こだわりが評価される時代へ」 ACN代表 田嶋 猛	1
種苗生産速報	「2003年9月～12月中間速報」 ACN総評	2
海外情報	「2004年アルテミア耐久卵の需給動向」 浅田 雅宏/太平洋貿易㈱	3
養殖概況	「一般概況」 中谷 充利/日清丸紅飼料㈱	4
	クローズアップ「愛媛県の養殖概況」 小林 一郎/日清丸紅飼料㈱	5
防疫概況	「概況とモニタリング情報」 藤原 和宏/㈱サン・ダイコー	6
トピックス	■餌料研究工場開所【ヤンマー株式会社】	7
	■新製品 養魚用バイオ製剤発売【クロレラ工業株式会社】	

新年のご挨拶

こだわりが評価される時代

コストにこだわる
品質にこだわる
きちんとした評価が報われる
この時代こそチャンスととらえる好機でしょう。

田嶋 猛 (NPO法人ACN代表)



一たじま・たけし
1949年生まれ、山口県防府市出身。長崎大学水産学部卒業後、食品会社に入社。その後、冷凍空調会社、貿易会社を経て、'90年4月に太平洋貿易(株)を設立、代表取締役社長に就任し現在に至る。

あけましておめでとうございます。平素からACNの活動にご支援いただきありがとうございます。本年もよろしくお願い申し上げます。

世界中でデフレが継続している昨今、財〔物〕もサービス〔人件費〕も今もってその傾向はとどまっています。水産物も同様ですが昨年は水産養殖にとってターニングポイントの兆しの見えた年であったと思います。

国産品の見直し機運

トラフグのホルマリン問題は中国産トラフグに非常に有利となり国内のトラフグ養殖はいよいよ中国に取って替わられるかと思いましたが、結果は国産の商品がきちんと評価されるという思いがけない結果となりました。

この傾向は数年前からのほうれん草等の残留農薬に端を発した中国産農産物の安全性不信がその後に続いた鰻、車エビの水産品でさらに不安感を煽り、国内問題であったトラフグのホルマリン問題に消費者が中国産も「ひょっとしたら」と敏感に反応した結果であると思います。

品質への取組評価

国産品であれ輸入品であれ、消費者を納得させられ

るデータのないものは商品価値が極度に落ちるでしょう。このことは養殖の前段階である稚魚や中間魚についても同様です。

これからはコスト優先で履歴のあやふやな稚魚や中間魚を導入することは養殖業者にとって深刻なコスト負担リスクとなることでしょう。

BSE、コイヘルペス症等今までは発症がなかったのか発見できなかったのか定かではありませんが、遺伝子、ウイルス、病原菌、残留薬品等の検査技術は飛躍的に進歩して大量のサンプルが短時間で処理されるようになっていきます。

このことは国内外の生産者にとっては「ごまかせない、気の抜けない、コストのかかる」ことを意味していますが裏返せば「きちんとすれば、きちんと評価」してもらえることに繋がります。

量から質の時代へ取り組む

デフレ傾向は世界的なもので日本だけのものではありません。この傾向が続く限りどの業界でも淘汰は進みますが石炭のように養殖業界が日本からなくなるわけではありません。むしろ、今は踏みとどまってデフレ対抗技術を蓄積して来るべきチャンスに備える時期ではないでしょうか。

2003年9月～12月 中間速報

マダイ、ヒラメが厳しい現状の中、トラフグ、シマアジ順調な推移。

1. マダイ

真鯛真鯛真鯛真鯛真鯛真鯛真鯛真鯛真鯛真鯛真鯛真鯛真鯛真鯛真鯛真鯛真鯛

成魚原価割れ続き種苗生産低調

2002年夏から下落した価格は2003年も回復しないまま越年した。

キロ物浜値が 500 円/kgを切っているところもあり最悪の状況である。

年間出荷5000万尾と供給が減少しているなか、熊

本のニチモウファームが生産を中止しているが山崎技研・近畿大学・ヨンキウ等の大手や熊本県の業者等17社が例年通り生産中である。

2. トラフグ

虎河豚虎河豚虎河豚虎河豚虎河豚虎河豚虎河豚虎河豚虎河豚虎河豚虎河豚虎河豚虎河豚虎河豚虎河豚

早期ものに強い引き合い

年末までの超早期種苗は大島水産種苗含めて3社が約40万尾出荷したのに続き、年明けから長崎種苗はじめ数社が出荷中である。

早期ものは南宇和など冬季水温条件のいいところのみならず長崎などでも導入する傾向がみられる。陸上養殖尾数はホルマリン問題以降急増傾向にあり早期物需要が見込まれる。

昨年12月までの超早期物の浜値は 105～110 円/尾、サイズ6cmup、(但し一部 80 円/尾も出回った)。

年明けから 100～105 円/尾と 5 円安となっている。海面養殖の歩留まり低下は深刻になっており、それに伴い中間魚の需要は活発であった。

昨年11月出荷の中間魚浜値は 550～660 円/尾 サイズ250～300g/尾 (キロ単価 2,200 円)。

中国産は成魚以外に中間魚の輸入も活発になっており価格は国産の半値であり種苗業者にとってはその動向が気になるところである。

3. ヒラメ

平目

成魚荷動き悪く、種苗導入意欲は低調

年内(9月から12月末)のヒラメ稚魚の出荷尾数は過去最低の約 250 万尾であった。

9月初旬より本格的に種苗生産が始まったが種苗生産者数は 19 社で年内出荷業者はまる阿水産、長崎種苗等 14 社であった。

平成5、6年頃の年内出荷尾数 約 1000 尾(年間 2300 万尾)と比べると今シーズンは1/4に激減している。このことから、平成9年の8500トンのピークから平成14年6200トンに減少する過程での養殖業者・種苗業者の魚種転換・廃業があり、直近2年間でその傾向が更に加速していることが推測される。

稚魚の価格は 7cmup が主流で浜値(運賃・税別) 11 円～12 円/cm で始まり、12 月下旬から 10 円/cm で販売されている。昨年のヒラメ稚魚導入尾数(約 950 万尾)の市場があるとすればあと 700 万尾見込めるが需要も供給もこの数量以下になりそうである。

種苗生産での奇形や白化は例年通り発生しているもののウイルス等の疾病発生状況は昨年と比べ少ない。

4. シマアジ

縹鯊

各社とも順調な滑り出し

ここ数年の種苗供給量不足を反映してシマアジは青物で唯一人気魚種となっており、今シーズンも各社が一斉に種苗生産を開始した。なかでもノグチフカは年内出荷可能な超早期種苗を仕上げている。

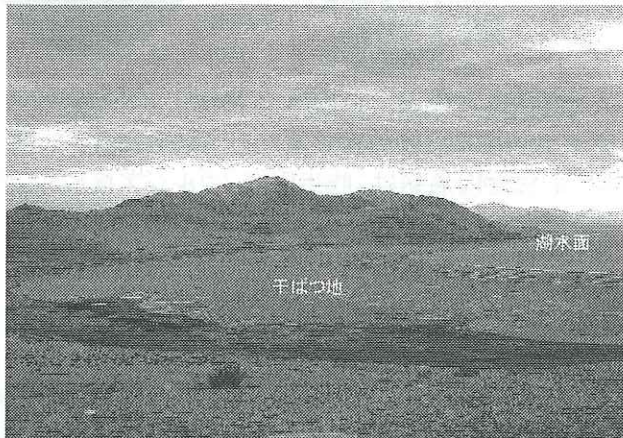
マリーンパレスも年末、年始にかけて 150 万尾

沖出しをしており近畿大学、山崎技研を含めて VNN等のトラブルはなく各社とも順調な滑り出しである。

(文中社名敬称略)

■2004年アルテミア耐久卵の需給動向 (2003年12月20日) グレートソルトレークの現況と国内需要予測

浅田 雅宏 (太平洋貿易株式会社)



日本で消費されるアルテミア耐久卵(いわゆるブラインシュリンプエッグ)の最大の産地である米国ユタ州グレートソルトレーク湖は今年は気象の影響で水位が下がり続けています。

激減状態のグレートソルトレーク

■水位は、一昨年あたりから比較すると8フィート(2.4m)近くも下がっています(上写真)。収穫の為の係留地では栈橋が使えなくなっているところ(写真下)もあります。

湖水塩分濃度が19%近くになると親アルテミアそのものの生存が難しくなりますが、現在は16~17%にまで上昇しており、状況の変化に注目しておく必要があります。冬場になり荒天で休漁する事が多くなっていますが、この雪などによりできる真水の層により卵がハイドレーションを卵がハイドレーションをおこし孵化率の低下という影響が出る可能性があります。

【操業】

今年は最初から操業していない会社や、操業を中止または縮小するところがほとんどです。INVEグループも操業数を減らし、他の大手2社も湖上では操業していません。操業しているのは今現在7社程度確認されています。DWRの操業許可件数からいうと約1/3程度です。

【収穫】

この秋は気温が下がらず、10月1日の解禁日になっても収穫できる状況ではなかったようです。今現在も収穫は続いています。DWR※の発表(表1-1)によれば昨年同期に比較して収穫量は激減しています。



使えなくなった収穫用栈橋

-あさだ・まさひろ
太平洋貿易株式会社専務取締役
1954年生まれ、1978年福岡大学法学部卒業
同年日中友好商社(株)ヤマダに入社 果実・野菜の物流、日中貿易に携わる。
1990年太平洋貿易株式会社設立より財務・販売管理責任者。
趣味は名前のとおり「ひろく、あさく」をモットーに目下ゴルフ・バドミントン。



■昨年同期の収穫量の僅か17%にしか過ぎません。ここに示す収穫量とは製品化処理前のいわゆるBiomassの重量です。

(表1-1)	2003年12月15日	2002年12月7日
Lake	1,836,541 ポンド	13,236,162 ポンド
Beach	1,531,915 ポンド	7,846,791 ポンド
Ponds	209,800 ポンド	26,500 ポンド
	3,578,256 ポンド	21,109,393 ポンド
合計	(1,624.5 トン)	(9,583.7 トン)

※ State of Utah, Department of Natural Resources, Division of Wildlife Resources
ユタ州野生動物資源管理部門

日本国内での動向予測

■此处で大胆ですが現時点の収穫量から日本、韓国、ヨーロッパで需要がある孵化率90%の出来上がり数量を予想してみます。Beach, Pondsの収穫物は品質的に問題があるのでLakeで収穫された約1,850,000ポンドものから試算してみます。

これを洗浄すると歩留まり40%で、さらに乾燥処理工程で60%程度のロスが出るので、最終的には製品として、300,000程度のものになると思われます。このうち孵化率90%のものがどの程度得られるか1月下旬頃までわかりませんが、楽観的に見て30%とすると約90,000ポンド(約40トン)であり日本国内の需要すら満たせないことになります。

■以上の状況からアメリカの輸出業者は、解禁当初から在庫の値上げは必至なので年内が輸入のチャンスと言いつつ続けており、2004年の年明けとともにさらに20~30%アップとするという情報を流してきています。2003年の輸入量が例年に比べ約50%に減少しており国内在庫も少ないことから価格上昇は避けられないと思います。

■ただ、一部の業者では資金繰りのための換金売りも見受けられることや、東南アジアでは中国産(カザフスタン、ウズベキスタン産も含む)が流通して価格が下落していること、また日本ではここ数年需要が減少してきていることなどからグレートソルトレーク産の輸出業者の思惑通りになるかは今のところ不透明です。

いずれにしろ90%以上の高孵化率の品物がどれだけ出来上がるのか、価格がどの程度になるのかは2004年2月以降にならないとわからないということです。

養殖

概況

中谷 充利

日清丸紅飼料(株) 九州水産営業部

-なかたに・みつとし
1975年生まれ
1997年東京水産大学 水産学研究
科(資源育成学)卒業
1997年4月日清飼料(株)入社。水産
飼料の営業職。
趣味はもちろん「釣り」



① ハマチ

安定生産からブランド化へ

平成 15 年度の当歳魚導入状況は、24,459 千尾(全かん水調べ 9 月)と昨年並の導入であると思われます。モジャコにおけるワクチン接種が定着したため、連鎖球菌症による斃死の心配が無く、年々当歳魚の成長が良くなっております。

しかしながら、新型の連鎖が発生しており、今後その動向が懸念されます。今年度は生餌が安く、相場の低迷が続く中、養殖業者にとっては生産コストを抑えることが出来た中で、EP飼料給餌魚のブランド化による、おいしく、日持ちする魚作りが進んでいます。

② カンパチ

1500 万尾順調に推移か

本年のカンパチ導入量は昨年より若干増加し、15,000 千尾前後と推定されます。成魚相場は在庫量の減少から回復傾向となりましたが、現在は下げ傾向となっております。

今年発生した赤潮により成長は例年に比べ遅れておりますが、10 月以降の高水温によりかなり遅れを取り戻しております。魚病は、昨年同様ノカルジア症による被害があり今年度はハマチ同様新型連鎖による被害も発生し今後これら魚病への対策が急がれます。

③ トラフグ

より一層の高品質化へ

今年度はホルマリン使用問題により、トラフグ養殖業界は大きな転機となりました。魚病に使用できる薬品が限られたため、その対応に苦慮しており、歩留まりの低下等影響が出てきています。今年度は、当歳魚の口白症による被害が大きく、その対策が急がれています。2003 年 12 月における成魚相場は、3000 円/kg前後と昨年同時期に比べ堅調に推移しております。しかしながら、出荷魚の肉質、白子の有無等、品質についての要望に対し、養殖業者は日々品質安定に向けた努力が続いております。

クローズアップ

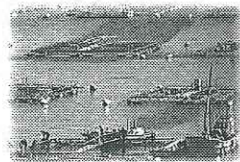
愛媛県の養殖概況



九州よりフェリーにて八幡浜に着くと養殖筏が目に入ってきます。八幡浜から海沿いを南下して行くと、どこまで行っても所狭しと筏が並ぶ光景を見ることができます。

愛媛県はマダイ、ハマチを主とする日本一の養殖生産地であり、日本の養殖状況を把握する上で大変重要な地区です。

今回は愛媛県の養殖状況について簡単ですがご報告させていただきます。



一字和筏風景-愛媛県漁連HPより

小林 一郎

日清丸紅飼料(株) 西部水産営業部
宇和島営業所

-こばやし・いちろう
1988年日清飼料(株)入社。水産飼料の営業職。
他詳細直接問い合わせ！とのこと

I. マダイ

■マダイの稚魚導入量は全かん水の調べによると平成 14 年が 2,700 万尾でしたが、本年はそれを下回り、2400 万尾程度と推察されます。これは成魚相場が低迷し(12 月末現在 500 円~550 円/kg)導入意欲が減退したことと、昨年、一昨年導入した稚魚の量が多く、それらが育った成魚が売れ残り、稚魚を入れるスペースが確保できていないことが主な原因と考えられます。

■平成 15 年の稚魚の導入後の成育状態は夏場の水温が例年に比べて低かったことからイリドウィルス症の被害も少なく、順調に育っています。歩

留まりが良かったことから秋仔の導入は控えめであったと感じます。

新3年魚(14年産稚魚)は成長がやや遅れ、宇和島以北では平均1.0kgとなっています。このため新4年魚(2kgサイズ)と3年魚との間である1.5kgサイズの魚がやや不足気味ではありますが、4年魚の過剰感から相場の上がる気配が感じられませんが、昨年よりも在庫が少ないことから相場の回復を期待する声も少なくありません。

Ⅱ. ヒラメ

■愛媛県のヒラメ養殖は過去には生簀養殖がブームとなり生産量も増大しましたが、現在は生簀養殖はなくなり、陸上養殖のみになっています。生産量は横ばいで16年も15年並の稚魚導入量となると推察されます。

Ⅲ. シマアジ

■マダイやハマチの相場が低迷する中、品薄から高値で売られているため稚魚の導入意欲が非常に高くなっています。

愛媛県内の15年の稚魚導入量は5~60万尾ではないかと推定していますが、正確には把握できていません。

15年に導入された稚魚の成育は順調で、歩留まりも良好です。今年も最も導入意欲が高い魚種であると考えます。

Ⅳ. トラフグ

■愛媛県のトラフグ養殖は宇和島周辺がメインで他地区ではそれほど目にすることはありません。マダイの相場が低迷し、コスト割れになっている現在でもトラフグへのシフトはほとんど感じられません。

養殖業者から見たマダイ稚魚の評価ポイントについて

養殖場に入入りしていると稚魚の評価をよく耳にします。下記に項目を挙げてみます。

- ① **色が良い** 色揚げのための仕上げを長い期間かけることなく、少ない期間と少ない色素量できれいな赤色に仕上がる魚に人気があります。500gサイズの時に遮光ネットを付けますが、色上がりの良い魚は色素を与えなくても遮光だけである程度きれいな色が出ます。また、産卵期に婚姻色である黒味が出にくい魚も高く評価されます。
- ② **体型が良い** 最近の傾向としては腹が下に出ず、やや長めの魚に人気があるように感じます。体型の評価は地区や個人によって差がありますが、成魚の出荷先の影響が大きく、体高の高い魚を「短い」とクレームを付けられたことがある生産者はこのことに過敏になっています。相場と荷動きが悪いときほど、見た目の良さが重要になってきます。

- ③ **歩留まりが良い** 変形魚の発生率が高い魚は評価を著しく損ないます。それ以外に最近では病気(イリドウイルス、エドワジェラ、等)に対する抵抗力を言うようになってきています。魚病の発生は生産者の管理面も大きく影響しているため、稚魚に全ての原因を転嫁することはできませんので、稚魚選びの最優先項目になることは少ないようです。

- ④ **成長が良い** 成長は良くて当たり前となっていますが、養殖業者の着眼点は「冬場の餌食いの良さ」にあるようです。また、稚魚時期の食い込みの良さも評価の基準になっています。

- ⑤ **卵成熟が少ない(産卵目減りが少ない)** 2年目の産卵期の目減りが少なければ大きな評価ポイントになります。

以上参考になれば幸いに存じます。

日清丸紅飼料株式会社 Marubeni Nisshin Feed Co., Ltd.

平成15年10月1日、丸紅飼料㈱と日清飼料㈱が統合し「日清丸紅飼料㈱」としてスタートした。

1. 商号 日清丸紅飼料株式会社
(英文社名: Marubeni Nisshin Feed Co., Ltd.)
2. 資本金 55億円
3. 出資比率 丸紅㈱ 60% ㈱日清製粉グループ本社 40%
4. 代表者 代表取締役会長 手塚基文
代表取締役社長 福嶋 宣
5. 本店所在地 東京都中央区日本橋室町四丁目5番1号
さくら室町ビルディング4階

■水産事業部

- * 中部・東部水産営業部 478-0046愛知県知多市北浜町14-1 0562(39)2200 0562(32)3796
東部営業所 985-0863宮城県多賀城市東田中2-2-3 022(389)2670 022(389)2680
- * 西部水産営業部 762-0001香川県坂出市京町3-3-8 坂出商工会館 0877(59)1001 0877(59)1004
愛南営業所 798-4110愛媛県南宇和郡御荘町平城3913-1 0895(73)1109 0895(73)0739
宇和島営業所 798-0087愛媛県宇和島市坂下津字向山甲381-130 0895(24)1104 0895(24)5395
宇和島養魚試験所 799-3771 愛媛県北宇和郡吉田町南君
- * 九州水産営業部 891-0122鹿児島県鹿児島市南栄4-22 099(269)1711 099(267)2044
福岡水産営業所 812-0016福岡市博多区博多駅南1-8-31九州ビル2F 092(433)8210 092(433)8214
佐伯営業所 876-0823 大分県佐伯市9036-8 神栄運送2F 0972(22)5760 0972(22)5766
- * 工場 鹿児島工場 宇和島水産工場 中日本大洋飼料 知多水産工場 * 水産研究所

■海産種苗用飼料おとひめ・アルテック・海さち ■海産稚魚栄養強化飼料ピアゴールド
■養魚用混合飼料アクアプラス ■マダイ色揚げ用飼料桜鯛 ■シラス餌付け用飼料イトメイト

防疫

概況

概況とモジャコ斃死報告

藤原 和宏

(株)サン・ダイコー アグリ事業部水産営業部

-ふじわら・かずひろ
1969年生まれ
鹿児島大学 水産学部卒業
入社11年目・水産事業部水産企画
担当
趣味「出張」(?)

近年の α 溶血性連鎖球菌症不活化ワクチン、ビブリオ病不活化ワクチン、イリドウィルス感染症不活化ワクチン普及により、それらの予防が可能になってきました。しかし、その一方で従来の α 溶血性連鎖球菌、 β 溶血性連鎖球菌とは異なるグラム陽性の新型連鎖球菌症や、夏から秋にかけて原

因不明によるモジャコの斃死が各地で発生しています。これらの新型の疾病が今後流行しないためにも、その原因追求と対策に努めると共に、更なるワクチン開発が望まれます。

今年の魚病発生状況

■ハマチ（モジャコ）

夏場の類結節症の発生が昨年に比べ多かった。一部薬剤（アンピリン）の耐性もみられたが、病勢は弱かった。夏場以降は、黄疸症、ノカルジア症の発生が主である。また、夏から秋にかけて原因不明によるモジャコの斃死が各地で発生し、被害が大きい地区もあった。

■カンパチ

新型の連鎖球菌症が各地で発生。その他ノカルジア症も見られるが、例年に比べ発生の時期が遅く、病勢も弱い傾向にある。

■トラフグ

夏場から秋口にかけて口白症が発生、病勢が強く被害の大きい地区もある。

■マダイ

夏場のイリドウィルス感染症は病勢弱かったが、エドワジェラタルダ症の病勢が非常に強く、来期以降の対策（予防）が必須となると思われる。

原因不明によるモジャコの斃死

今までに各県の水産試験場等に検体が持ち込まれておりますが、今のところ原因が解っておりません。来年度以降の流行が懸念される為、これまでに弊社で集めた情報を報告致します。

《症状》

遊泳状況は、水面を不特定方向にフラフラ泳ぎ、中にはクルクル回っているものもあり、網に衝突しては方向を変え、

盲目と思われる。取上げた該当魚は、吻端が発赤、また欠損しており、中には鰓蓋付近がズル剥け状態のものもある。肥満度は健康魚に比べ、明らかに低く、体色も異なる。

《斃死状況》

多いイケースで0.5%/1日の斃死がダラダラ続く。期間は地区により異なり、一過性（1週間程）で終息した地区もあるが、発生から終息まで2ヶ月（8～10月）近く掛かった地区もあった。

《弊社調査報告》

→飼料形態（EP、MP、DP、生）、給餌形態（過食、制限）の違いによる斃死の差は見られるも、同一メーカーによる共通点はない。

→モジャコの導入時期の差も見られる。

→ワクチン接種、未接種に関係無く発生。

→斃死発生後、制限給餌若しくは餌止めを行うが効果はみられなかった。

→同一地区での終息時期はほとんど同じ。

《対策》

投薬による治療効果は無く、効果的予防についても情報が少ないですが、終息時期がほとんど同じである事、発症前後の環境（他疾病、給餌形態、水温・潮流等の外的環境）により、斃死・発症時期の差があることから、何らかの環境変化（ストレス）が発病を後押ししているとも考えられる。普段のストレス対策に注意を払い、いかに発症を遅らせ、斃死を少なくするかがポイントであると思われる。

アグリ事業部水産関係事業所

- 鹿児島支店 鹿児島県鹿児島市吉野町2430 ㊦892-8511
- 鹿屋営業所 鹿児島県鹿屋市寿4-5-41 ㊦893-0014
- 出水営業所 鹿児島県出水市六月田町412 ㊦899-0126
- 天草営業所 熊本県本渡市亀場町食場友尻825 ㊦863-0046
- 佐世保営業所 長崎県佐世保市広田2-195-1 ㊦859-3223
- 佐伯営業所 大分県佐伯市日の出町1-28
日豊海運ビル2F ㊦876-0802
- 宇和島営業所 愛媛県宇和島市弁天町1-7-8 ㊦798-0006

TEL099-243-6104・FAX099-244-3285
TEL0994-44-9599・FAX0994-43-9085
TEL0996-67-4848・FAX0996-67-4833
TEL0969-23-9075・FAX0969-23-4030
TEL0956-38-6312・FAX0956-38-6500

TEL0972-23-8235・FAX0972-22-3092
TEL0895-20-0154・FAX0895-20-0153



トピックス



ヤンマー餌料研究工場の御紹介

ヤンマー株式会社

〒873-0421

大分県国東郡武蔵町糸原3286 ヤンマーマリンファーム TEL 0978-68-0766 FAX 0978-68-1164

環境プラントエンジニアリング部 ヤンマーマリンファーム

室越 章

■ヤンマーマリンファームにおいて平成11年14日「餌料研究工場」を開所致しましたので御紹介します。弊社では、昭和62年より「つくり育てる漁業」を支援する、水産物の飼育研究施設『ヤンマーマリンファーム』を開所し、養殖・種苗生産分野における省力化、生産性の向上をはかるための商品開発を行って参りました。

さらに、手軽に餌料生物を入手したいとの市場ニーズの高まりにあわせ、この度「餌料研究工場」を建設いたしました。ここでは、主に浮遊珪藻(キートセロス、ナンクロロプシス等)を中心に培養販売していきますので今後ともよろしく御願います。また、この浮遊珪藻を用いた種苗生産事業をはじめたい方々の研修制度も行う予定ですのでご興味あるかたはご連絡下さい。



トピックス



新製品の御紹介

養魚用バイオ製剤

アクアリフト700P

【製品特徴】

天然無機物質を特殊加工することで製造した環境に優しい処理剤です。濾過材等では除去できない、水に溶け込んだ魚介類に有害な、アンモニア・硫化水素・有機物等を分解除去して水を清澄させ、臭気の除去等を行う資材です。

【主要用途】

- ・海水・淡水兼用です。
- ・魚介類だけでなく、甲殻類等を飼育している水槽や生簀に適しています。

アクアリフト700Pを使用すると下記の効果が顕著に現れます

1. 水中に溶け込んだ有機物・有害物質を分解して水を清澄する。
2. 池の悪臭の防止や、底泥(ヘドロ)の分解浄化することにより魚介類・イトミズ等の微生物が生息できる環境をつくる。
(溶存酸素の回復)
3. 水槽内の残餌・ヘドロ・硫化水素・アンモニア・カダベリン等の有害物質を分解する。
4. メルカプタン・硫化水素・アンモニア・カダベリン・アミン等の毒性物質や悪臭を分解する。
5. 魚介類のウイルス・カビ病・ピブリオ・鰓腐病等の発病を抑制し、死亡率を低下させる。

【使用量】

(魚の量・即効性等により投与量を加減してください)

水 槽	陸上水槽	大型養殖池
水 量	10~50t	500~1,000t
投与量	700P(S)1袋	700P1袋

【一般性状】

外 観: 赤茶色粉体 嵩比重: 1.5 臭気: 無し 平均粒度: 350 ムッシュ 引火点: 無し 成 分: バクテリア(好気性・嫌気性)・スタクメイトの混合物

【商品荷姿】

■アクアリフト700P 1kg×12袋/1ケース ■アクアリフト700P-S 350g×12袋/1ケース

フコデ工業(株)

開発事業本部 技術販販部 〒833-0056 福岡県筑後市久富1343番地 (担当 斎藤・藤木) TEL 0942(52)1261 FAX 0942(51)7203

つくり育てる漁業・人と技術のネットワーク

NPO法人ACN

今年も、多くの皆様の支持を頂ながら、つくり育てる漁業とともに



有限会社アイエスシー
上野製薬株式会社
クロレラ工業株式会社
太平洋貿易株式会社
株式会社田中三次郎商店
日清丸紅飼料株式会社

積水化学工業株式会社
株式会社サン・ダイコー
有限会社西和マリンプロダクツ
株式会社松阪製作所
株式会社山一製作所
ヤンマー九州株式会社



(団体正会員)

イラスト:太平洋貿易・中野より引用

ACN概要

■水産種苗生産者を客先とするメーカー、商社の同業界異業種交流の会として、1990年10月に任意団体として発足
・2003年3月7日福岡県からNPO法人として認可され、同年3月31日に法人設立登記
・法人名称特定非営利活動法人アクアカルチャーネットワーク 英文 ACN
・主たる事務所 福岡県小郡市小郡1139番地の1(株)田中三次郎商店内
・従たる事務所 福岡県福岡市博多区住吉2丁目11番11号太平洋貿易(株)内
・団体正会員(有)アイエスシー、上野製薬(株)、積水化学工業(株)、クロレラ工業(株)、(株)サン・ダイコー、(有)西和マリンプロダクツ、太平洋貿易(株)、(株)田中三次郎商店、日清飼料(株)、(有)松阪製作所、(株)山一製作所、ヤンマー九州(株)
・理事長田嶋 猛(太平洋貿易(株)代表取締役)・副理事長福田 功一((有)西和マリンプロダクツ代表取締役)・顧問多部田 修(長崎大学前水産学部長 名誉教授)

ACNの目的

■つくり育てる漁業及び漁業資源の保護活動を啓発、支援するために、講習会や技術研修会等の教育啓蒙事業及び放流支援活動を行い、もって、地域社会の漁業振興に寄与する事を目的とする。

主たる活動

■年5回の勉強会、隔年の水産種苗フォーラム(福岡市)、同じく隔年の出張種苗フォーラム(各地)の主催、年2回の会報誌ACNレポート配布。

水産種苗フォーラム

■「ACN水産種苗フォーラム」は水産庁南西海区水産研究所(現・瀬戸内海区水産研究所)の故岡本先生の呼びかけに応じてクロレラ工業株式会社殿が隔年開催してきた水産種苗研究会をACNが引き継いで今日に至る。

近年の講演内容

第6回 1995年:(株)水圏環境コンサルタント佐野氏「水処理における微生物制御技術」・広島大学生物生産学部室賀教授「海産魚の仔稚魚時におけるウイルス病」

第7回 1997年:長崎大学水産学部橋 教授「魚類の免疫学とα-カロチン」・近畿大学 農学部教授 熊井教授「数種海産魚の養殖技術情報」

第8回 1999年:阪大微生物研究所 真鍋課長「イリドウイルスとワクチン」・下関市立大学濱田教授「魚類養殖と流通」日本栽培漁業協会本間顧問「種苗生産技術の歩み」

第9回 2001年:日清飼料(株)水産研究所高橋主任研究員「種苗生産技術の歩み」海洋科学技術センター中島研究副主幹「深層水の利用」北海道大学 水産学部 吉水教授「魚の病気とその対策」

第10回 2003年:クロレラ工業(株)R/D 部中村寿雄課長「生物飼料に対する二次栄養強化剤の開発について」・韓国済州道海洋水産研究所高京民研究士「韓国海産魚養殖漁業の現況と済州道のヒラメ養殖」・東京水産大学地域共同研究センター浦崎利之教授「水産養殖魚とマーケティング」

出張種苗フォーラム

■高松市 1996年・上野製薬 研究部 柏木氏「魚病とその対策と病原性大腸菌 O-157 について」

宮崎市 1998年・湊文社 池田氏「海外の種苗生産の現状と魚の流通」

長崎市 2000年・長崎大学 萩原教授「フムシ耐久卵利用の可能性」

広島市 2002年・広島県水産試験場 飯田氏「種苗生産時期におけるヒラメの病害問題について」ACN 多部田氏「中国におけるフグ類の養殖について」

20号をお届けして。

▼ACN結成は、平成二年十月、九社でスタートしました。そして初めてのACNレポートをお届けしたのは、平成五年三月、十一年前です。手元のバックナンバーを眺めると、レポート二号には、田中社長(株)田中三次郎商店)のスペインでの養殖展の様子やスタート時より続いている「種苗生産速報」など、拙い紙面編集でも中々の内容です。平成四年には、日韓交流の研究会も済州島で開催しました。

スタート時は、時代背景もあつたのでしょうか、元気で各社とも。▼先の、二号にヒラメ、イシガキダイ、ハタ等の魚類開発の取組も紹介されています。十一年後の現状を考えますと、養殖魚種の開発の難しさを痛感します。

巻頭の、代表の挨拶に関連して、品質・こだわりが魚種にも普及し、地域の特産品になつてもっと元気で、自負に満ちた生産者や地域が増えればと願わずにはいられません。

▼今月の「アクアネット」誌に、四国六社の、種苗、養殖、そして調理提供まで手がけている話題が掲載されています。少子高齢化時代に、中高年

の興味を考えると案外、ヒントになる取組みたいな気がしてきます。

地域で作って、そのまま地域で食べてもらう。一昔前あたりまでだったことが、食の安全、そしてスローフーズなどの話題の前に新鮮なニュースになる時代です。

▼ACNの組織のすばらしさは、ゆるやかに無理なく取り組んできた姿勢にあるような気がします。十三年の継続は、もちろん生産者の方々の交流が基盤となつていますが、構造的な変動の時代にあつてこの姿勢はこれから大切ではないでしょうか。

一方、昨年度ACNは特定非営利活動法人の認証を受けました。

これまでの取組そのものが十分ZO活動でしたので、むしろ遅きに逸した感さえありますが、法人格をもつてこれからの十年が期待されるところです。

▼本誌も、そろそろ新しい世代での取組で、双方向時代にあふさわしい紙面つくりを御願ひしたいところです。

ますます、つくり育てる漁業が食料基盤の礎となり、地方の時代にふさわしい産業と期待されます。

二十号を振り返りつつ、本年も皆様の取組がますます後継者にふさわしい仕事となりますように。